

おおえどしばあねんぢうぎやうし

大江戸芝居 年中行事

2018年度
收藏品展
Part 1.

—明治の浮世絵にみる江戸の歌舞伎興行—

2019
5.9 木 ▶ 6.8 土



「願寄せの式」安達吟光画、大判錦絵、明治30年（1897）

 城西大学水田美術館
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY

開館時間 = 午前10時～午後4時
休館日 = 日曜日・月曜日
観覧料 = 無料
会場 = ギャラリー1

Open: 10:00～16:00
Closed: Sundays, Mondays
Admission fee: free
Place: Gallery 1



1

2



3



4



5



6

- 1、「ワキ狂言」安達吟光画、大判錦絵、明治30年(1897) 2、「二ツ目」鳥居清貞画、大判錦絵、明治30年(1897)
 3、「引幕と口上」安達吟光画、大判錦絵、明治30年(1897) 4、「茶屋入り」鳥居清貞画、大判錦絵、明治30年(1897)
 5、「場釣り提灯」鳥居清貞画、大判錦絵、明治30年(1897) 6、「披露目の口上」安達吟光画、大判錦絵、明治30年(1897)

昨年当館の所蔵となった収藏品をご紹介します「2018年度収藏品展」を2回に分けて開催します。

第一弾では、「大江戸芝居年中行事—明治の浮世絵にみる江戸の歌舞伎興行—」とし、明治30年(1897)に制作された《大江戸芝居年中行事》26枚揃のうち25点を展示します。

過ぎ去りし「良き徳川時代」を懐かしむ江戸回顧の風潮が明治半ば頃より広がり始め、その求めに応じるように浮世絵作品が続々と企画されました。本作もその一つで、江戸三座(江戸での興行権を得た中村座、市村座、森田座のこと)の歌舞伎興行の慣習を取り上げて解説を付した25図に目録1図を加えた揃物となります。描いたのは、幕末から明治期に活躍した安達吟光(1853~1902)と鳥居清貞(1844~1901)です。『羽勘三台図絵』、『劇場楽屋図会』など19世紀初頭に江戸や大坂で出版された版本、いわゆる「歌舞伎鑑賞手引書」を参考にしながら本作は制作されたとされます。

墨摺りの版本では味わえない、鮮やかな多色摺りの浮世絵版面から、江戸時代の歌舞伎に思いを馳せて頂けましたら幸いです。

学芸員による ギャラリートーク

日時:5月25日(土)
午後2時~
(約40分)
場所:ギャラリー1
※申込不要

次回予告

2018年度
収藏品展
Part 2



楊洲周延《時代かゞみ》全点展示

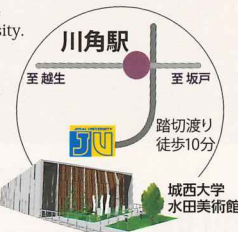
前期:2019年6月11日(火)~7月6日(土)
 後期:2019年7月10日(水)~8月3日(土)
 会場:ギャラリー1、観覧料:無料

交通のご案内 / Access



【電車の場合】
 東武東上線川角駅乗り換えで東武越生線川角駅下車、踏切を渡り徒歩10分
 By train: From Sakado station of the Tōbu-Tōjō Line, take the Tōbu-Ogose Line and get off at Kawakado station. It is a ten minute walk to the university.

【お車の場合】
 1. 関越自動車道「鶴ヶ島 I.C.」を出て、鶴ヶ島方面に進み国道407号線を直進
 2. 「脚折町四丁目」交差点で右折し、右に「狩野動物病院」の看板がある交差点で右折
 3. 「一本松」交差点を毛呂山方面に直進
 4. 「万年橋」を渡り、「明海大学病院」の看板がある交差点を左折し直進、踏切を渡り登り坂を進むと突き当りに城西大学正門入口
 ※鶴ヶ島 I.C. より約 20 分



数字は川角駅までの最短所要時間です。
 The number indicates the shortest time required to reach Kawakado station.